

## Ⅱ 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲「やさしい魚（うお）」

川崎 洋 作詩 新実 徳英 作曲

川崎洋（ひろし）は、1930年東京大森生まれ。1944年に福岡県八女郡に疎開。51年西南学院専門学校英文科中退。横須賀の米軍キャンプに勤務していた。18歳ごろから詩を書き始め、23歳の時に詩人の茨木のり子と詩誌「權」を創刊。谷川俊太郎、大岡信を同人に迎え、当時、活発な詩の創作に励んだ。代表詩集に「はくちょう」「象」「食物小屋」「重いつばさ」などがある。

男声合唱曲「やさしい魚（うお）」は、作曲されることをまったく予期せずにかかれた詩であったようだ。本人は、学生時代にグリー、横須賀時代に混声合唱を数年間ずつ歌っていたということもあって、5篇の詩が混声合唱曲になると新実徳英氏から電話をもらって、「驚きと喜び」を同時に味わうことができた感想を述べている。

新実徳英（にいみとくひで）は、1947年名古屋市生まれ。東京大学工学部卒業後、東京藝術大学音楽学部作曲科卒業、同大学院修了。間宮芳生、三喜晃らに師事。幼稚園からヴァイオリンを習い、高校・大学で合唱に出会う。管弦楽、吹奏楽、室内楽、邦楽、歌劇、歌曲、合唱曲などその作曲カテゴリーは広い。「やさしい魚（うお）」の男声合唱の初演は、1983年12月早稲田大学コーレ・フリーゲル第29回定期演奏会であった。

本楽譜の巻頭言にある「表現について」の新実の言葉を載せておきたい。～作曲という表現行為が完結し譜面ができあがる。が、これは真の完結ではない。より良く・より充分に感じ・観ずる人々がこの譜面を手にとり、かつて私の内に脹らんだ音は今度は輝ける音として外に表出されてゆく。それは、演奏する人々の、聴く人々の、そして私の裡に何かを生起させる。一つの、環が閉じ、また新たな環へと広がっていく。

<下記解説は、楽譜「男声合唱曲『やさしい魚』」の冒頭にある五つの詩に寄せてより抜粋・編集したものである>

### 感傷的な唄

自分がセンチメントに溺れるのを、単には許されることだろうということで、涙腺のネジをいっぱいゆるめたような詩である。当人にとっては、気恥ずかしい代物だという。詩内にある「体温計のケースにしよばせて手渡そうとした恋文」は、実話だそう。曲は、4/4+3/4（拍子）という変則的な拍でスタートさせている。全体に川崎らしい詩を新実らしい表現で創り上げられた独特な曲になっている。

### ジョギングの唄

日常的な言葉による詩ではあるが、曲としてはユニークな仕上がりになっている。川崎洋は、かなり気に入っている詩のようだ。人の目を誘い寄せる新奇なイメージを恣意のままに彫琢するより、思念や情感の根を地に下ろしたところで詩を書きたいという気持ちから生まれたという。しかも、それは生き方にもつながると。

平均年齢75歳の小田原男声の団員としては、この唄を自分たちのものにするためには、かなりの鍛錬が必要だった。息切れ、コース離脱など様々な壁が前面に立ち塞がっていた。さて、どれだけの壁を打ち破り、超えることができたか。

### 天使

ふっと湧いたイメージをもとに、衝動的に短時間のうちに書き上げた詩。詩内にある「ひどいこと」は、純粹無垢なイメージの天使の衣を引き裂き、「（天使の）傷ついた翼」に続いて、その口調に乗って、かなり嗜虐性のある野卑な言辞をもてあそびそうになるという感じを表現したという。天使の愛憎がテーマのようで、なかなか意味深な曲になっている。

歌っていてもこの川崎×新実ワールドに浸っている自分たちが、天使に出逢えているような幻想にとりつかれてしまうほど魅力的なハーモニーである。

### 鳥が

1982年全日本合唱連盟コンクールの選曲として男声版「鳥が」が生まれた。この曲がきっかけで、全5曲の「やさしい魚（うお）」男声版が誕生したことになる。この詩は、企業のカレンダーの「鳥と花の絵柄」に刷り込むために依頼された詩だった。鳥も花もそして人も見た目の形状ほど、実は、それほど変わってはいない。そして、何よりもこれらすべてが自分と血のつながった存在であると認識した曲である。大らかな風景が、空高くそして目の前に広く輝いて見えてくる曲の構成になっている。

### やさしい魚（うお）

子供がひとりで絵を描きながら呟くような具合に、いい年をした大人が、その呟きを文字にした詩。やさしさのうろこが剥がれる痛みを表現した曲である。歳月を十分なまで重ねたきた私たちだからこそ、この歌の深さを知らされる気がしてならない。強いからこそやさしくなれると問うている。

（解説：B2野口 吉昭）

### ODADAN-YouTubeのお知らせ

第6回～第51回定期演奏会の中からピックアップしてYouTubeに現在まで単曲、組曲など50本ほどアップロードしております。是非とも「小田原男声合唱団」で検索いただき視聴（静止画ですが）いただければ幸いです。本日の第52回定期演奏会も後日、アップさせていただきます。

<第50回定期演奏会より>

箱根八里



QRコードからアクセスいただくとYouTubeにつながります

からたちの花



# 川崎洋の詩による五つの男声合唱曲「やさしい魚(うお)」

JASRAC 出2306336-301

## 感傷的な唄 一詩集「象」より

風が吹くから  
生きよう  
そう思う前に  
もう足が駆け出していた

風が吹くから  
見えないものを  
信じることができた

不意に思い出す  
トンボがつながるときの  
カシャ という音

小鳥の歌に  
人間の歌で返事しよう  
と思ったときのこと

体温計のケースに  
しのばせて  
手渡そうとした恋文は  
とうとう渡せないまま  
あれから  
どこへ行ったのだったか

唄好きな蝶番(ちょうつがい)は  
他の星から飛んできた風船と  
よく話をしていたし

位の低い神様のベンチには  
主題のない招待状が  
陽に光っていた

死んでしまって  
肉体もすっかり滅びても  
私の  
もう此の世のものではない耳に  
美しい歌だけが聞こえてくる  
そんな祈りが  
もしかして  
適(かな)えられないだろうか

## ジョギングの唄 一詩集「食物小屋」より

おれは常套句を愛する  
すなわち  
<自分の歩幅で>  
というやつだ  
および腰の知性なぞ  
古い運動靴のように打ち捨てて  
わっしょい

人は  
よりよい明日をつくり得る  
と  
意地でも思い込んで  
わっしょい

心臓から押し出された血が  
ふたたび心臓にもどるのに  
18秒しか かからぬそんな  
寸刻ごとに  
新しいのだぞおれは  
わっしょい

おれの生き方は  
こうなのだ  
こうなのだ  
こうなのだ  
と確かめながら  
いとし地球を踏んで行くのだ  
わっしょい

## 天使 一詩集「象」より

まなざし  
だけが  
みえる

め  
のかたち  
でなく

まなざし  
という  
じ  
の  
むこうの  
いめーじ  
が

おなじように  
つばさ  
の  
きずが

そして  
てんし  
に  
ことよせて  
ひどいこと  
を  
いいそう  
に  
なる  
のを

いっしょうけんめい  
に  
こらえる

## 鳥が 一詩集「食物小屋」より

鳥が  
空を見上げるように  
花が つぼみを ほどく

鳥が  
羽ばたこうとするように  
花が 葉をしげらせる

鳥が  
飛びたつように  
花が 咲きそめる

鳥が  
歌うように  
花が におう

そして  
人は ことばで  
鳥のように飛び  
花のように咲く

## やさしい魚(うお) 一詩集「象」より

やさしい魚(うお)のやさしいうろこが  
月曜日に一枚火曜日に二枚剥がれた

剥がれたうろこは銀色にひかりながら  
海の中見えない底へ沈んでいく

やさしい魚(うお)のやさしいうろこが  
水曜日に三枚木曜日に五枚剥がれた

うろこが剥がれて  
やさしい魚はひりひり痛い

やさしい魚(うお)のやさしいうろこが  
金曜日に十四枚土曜日に三十八枚剥がれた  
日曜日 歌おうと海に来てみれば  
砂に終止符のようなやさしい魚(うお)のなきがら

## 日本男声合唱協会第25回演奏会「JAMCA 小田原」

2025年4月19日(土)20日(日)  
小田原三の丸ホールにて開催決定

北海道から九州までの団体会員、個人会員が  
小田原に集結し、2日間にわたって男声合唱の  
魅力を披露します